# 2021 年度 帝京大学大学院公衆衛生学研究科 自己点検・自己評価

2021年6月20日

2021 年度自己点検・評価委員会

当研究科の教育活動等について、2021 年 4 月 22 日開催の 2021 年度自己点検・評価委員会において本年度の自己点検・自己評価を行った。自己点検・自己評価の実施項目は、1. 2020 年度の自己点検・自己評価、2. 帝京大学大学院公衆衛生学研究科公衆衛生学専攻に対する認証評価結果(大学基準協会、2021 年 3 月 26 日)において指摘のあった改善すべき課題 5 項目、3. 2021 年 2 月 18 日開催の教育課程連携協議会(アドバイザリーボード)で指摘のあった 2 項目である。

# 1. 2020 年度の自己点検・自己評価

①遠隔授業の導入、②コンピテンシーの見直し、③認証評価の受審、④アセスメント・ポリシーの作成について、2020年度の振り返りを行った。

## ①遠隔授業の導入

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、緊急事態宣言が発令され、移動が一時制限された。そのため、板橋キャンパスに来ることができない学生に対して、オンライン(zoom)やオンデマンド(PowerPoint)を利用した授業を実施した。感染状況や履修状況に応じて、ハイブリッドや対面授業に移行し、流動的に授業形態を変更している。

#### ②コンピテンシーの見直し

本研究科では国際基準のコンピテンシーを研究科独自のコンピテンシーに読み替えていたが、国際基準のコンピテンシーと整合性を取った。FDで検討した結果、基本的なコンピテンシーと、各コースの独自コンピテンシーを見直した。

#### ③認証評価の受審

5年に1度実施が求められている大学基準協会による認証評価を受審した。点検・評価報告書の提出と実地調査による認証評価が実施された。受審にあたっては、根拠資料や閲覧資料を準備した。受審の結果、大学基準協会の公衆衛生系専門職大学院の基準に適合していると認定されたが、5点の検討課題を指摘された。

## ④アセスメント・ポリシーの策定

大学からの求めに応じて、アセスメント・ポリシーの見直しを行った。

# 2. 帝京大学大学院公衆衛生学研究科公衆衛生学専攻に対する認証評価結果(大

# 学基準協会、2021年3月26日)において指摘のあった改善すべき課題5項目

# ①5 つの基本専門領域の履修バランス

改善すべき課題: "教育課程は5つの基本専門領域を網羅しているものの、このうち疫学、生物統計学などの計量科学の必修単位数に比較し、健康行動科学、保健政策・医療管理学、産業環境保健学の必修単位数が少なく、5つの領域における履修のバランスを取ることが求められる。したがって、今後は、領域ごとに必修・選択必修の最低習得単位数を設定するなどの改善が望まれる。(帝京大学大学院公衆衛生学研究科公衆衛生学専攻に対する認証評価結果より)"

## 自己点検・評価および改善計画

現在は、5つの基本専門領域のうち疫学および生物統計学については、基礎疫学、基礎生物統計学が各4単位である。それに対して、5つの基本専門領域のうち社会行動科学、保健政策・医療管理学、産業環境保健学については、健康行動科学概論、保健政策・医療管理学概論、産業環境保健学概論がそれぞれ2単位、1単位、1単位である。指摘は妥当なものであると考える。改善方策として、5分野の履修バランスを考慮するようアカデミックアドバイザーから各学生に履修指導するとともに、「必修科目が1単位のため、選択科目を少なくとも1科目以上履修することが望ましい」と2021年度履修要項に記載し、学生への周知を図っている。

### ②アドバイザリー・ボード構成員

改善すべき課題: "2019 年度に設置した「教育課程連携協議会」(アドバイザリー・ボード) の構成員について、5名の構成員に介護老人福祉施設関係者を入れているものの、そのほかは当該専攻あるいは帝京大学医学部に関係するものであるため、法令上必要とされる「当該専門職大学院を置く大学の教員その他の職員以外の者」を参画させるよう、2021 年度からの新たな委員選出において法令要件を満たすとともに、行政自治体や産業界等からの委員を加えることが求められる。(帝京大学大学院公衆衛生学研究科公衆衛生学専攻に対する認証評価結果より)"

### 自己点検・評価および改善計画

指摘は妥当なものであると考える。2020 年度の「教育課程連携協議会」より法令要件を満たす 5 名の構成員に変更している。また、2021 年度においても、指摘の通り、医療福祉施設関係者 の他、行政自治体や産業界等からの参画を検討する。

#### ③幅広い知見に触れる環境として総合大学としての資源を活用

改善すべき課題: "公衆衛生専門職に求められる幅広い知見に触れる環境として、充実した 図書・情報検索の環境を整備し、同キャンパス内の他研究科との共同講義についても計画が 進んでいるため、当該分野に関連が深い医療系の研究科等を保有する総合大学としての資 源を活用し、学生の課題研究やキャリアパスに応じて他研究科の科目履修による単位習得 を可能とするなど、さらなる取り組みに期待したい。(帝京大学大学院公衆衛生学研究科公衆衛生 学専攻に対する認証評価結果より)"

## 自己点検・評価および改善計画

同キャンパス内の他研究科との共同講義については、帝京国際サマースクール、ハーバード特別 講義において、同キャンパス内の他研究科の学生が本研究科の授業に参加している。また、本研 究科必修科目の「公衆衛生倫理学」を板橋キャンパスの大学院共通科目「研究倫理」として 2021 年度から開講している。指摘の主旨には賛同するものであり、学生の課題研究やキャリアパ スに応じて他研究科の科目履修による単位習得が可能となるよう他研究科の科目を本研究科 の学生が受講できるように現在検討中である。

# ④科目「課題研究」の指導内容の充実

改善すべき課題: "当該専攻では 2020 年度から課題研究の単位数を増加させ、これに伴い修了要件単位数を変更している。これについて、指導内容を充実させ従来よりも高いエフォートを教員・学生ともに求めることから実態に即して単位数を増加させたとしているが、修了要件単位数のうち3割近くを占めているため、養成する人材像や学位授与方針等にも照らして現状を検証し、その妥当性を検討することを強く求める。とりわけ、1年間で修了するコースの学生は、実質10か月あまりで課題研究を含む修了要件単位数(42単位)に相当する学習時間を確保することが必要となるため、適切な学習時間・学習量の観点から妥当性を検討されたい。(帝京大学大学院公衆衛生学研究科公衆衛生学専攻に対する認証評価結果より)"

#### 自己点検・評価および改善計画

当該科目「課題研究」は、2020 年度から 12 単位としている。この単位数は妥当なものであると考えている。学生は、最低でも年間 5 回の発表、2 回の抄録の提出と修士論文に相当する課題研究報告書の提出を求められる。発表会での発表内容について不足であると教員が判断した場合は再発表が求められ、2 回程度の追加もある。各発表会、提出物締切前には指導教員による個別指導がおこなわれ、12 単位に相当する学習時間・学習量が確保されていると考える。なお専門職学位課程 1 年コースの学生には短期間に多くの学習時間・学習量を求めるものであり、入学希望者の入学前の面談において自己の適格性を点検することを勧めている。

## ⑤入学定員の管理

改善すべき課題: "入学定員の未充足については、広報活動の強化や「ローリング・アドミッション(Rolling admission)方式」の導入により改善されたが、近年は入学定員を大幅に上回る入学者を受け入れているため、教育の質を担保するうえで学生数の適正化の観点から、適切な定員管理を強く求める。(帝京大学大学院公衆衛生学研究科公衆衛生学専攻に対する認証評価結果より)"

# 自己点検・評価および改善計画

指摘のうち教育の質についての自己評価は、現在の受け入れ入学者数は妥当なものであり、教育の質を担保していると考えている。2020年度から教員数を15名から16名へと増やした。指摘のうち入学定員を上回る入学者を受け入れている点は事実である。2021年度内に専門職学位課程2年コースの入学定員を現在の10人から20人に増員する方向で、定員増の申請準備を進める。

3. 2021 年 2 月 18 日開催の教育課程連携協議会(アドバイザリーボード)で指摘のあった 2 項目.

# ①入学試験

改善すべき課題: "いつでも出願できるローリング・アドミッション方式は画期的である。 Web 出願の導入も検討してみては。(2020 年度教育課程連携協議会議事録より)"

# 自己点検・評価および改善計画

3年前からローリング・アドミッションと4回の合格発表という方法で入試を行っている。面接の日程調整と会場の確保が大変であるが、忙しい社会人にとって受験しやすい環境を実現したと考えている。入学試験形態についての自己評価はほぼ達成していると考えている。Web 出願については判断保留中である。前述したように現在の入試の形態は日時指定の入試と比較して複雑であり、Web 出願の導入は簡単ではないが、これを求める声もあり、実現可能性について検討を行っている。

#### ②教育目的・3 ポリシー等

改善すべき課題: "教育目的、3 ポリシー等の文章が長いのでもっと簡潔にしてもよいのではないか。(2020年度教育課程連携協議会議事録より)"

# 自己点検・評価および改善計画

学内の他研究科に比較しても記載が長いのは事実であり、指摘は妥当であると考える。現状に即して文言を変更し、簡潔に記載したい。2021 年度中に FD 等で検討し、研究科委員会にて審議する。